

# 第2次黒部総合振興計画審議会

## 第3回第4部会【健康・福祉】

### 議事概要

日 時：平成 29 年 7 月 6 日（木）14:00～  
場 所：黒部市役所 203 会議室  
出席者：委員 7 名（欠席 1 名）、専門委員 1 名（欠席なし）  
幹事 3 名（欠席なし）、計画主任 9 名（欠席なし）、事務局 4 名

#### 次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
  - （1）前回審議会以降の経過について
  - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
  - （1）施策区分別の個別事業について
  - （2）各個別事業の協働体制、市民等へのメッセージ、主な指標と目標値について
5. その他
6. 閉会

### 主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

#### 部会長あいさつ

○部会長：本日はご多用中にも関わらず、第3回部会にご出席いただき感謝申し上げます。  
本日の部会は平成 29 年度の最初の部会である。昨年度は、基本構想を中心に審議してきたが、本年度は前期基本計画の策定に向けての審議であり、なお、前回審議会でもスケジュールが提示されているが、計3回の部会を開催しながら前期基本計画を策定していきたい。部会において様々な意見を通して、黒部市の未来の創造に向けて、各委員のご協力をいただきたい。

## 報告事項

(資料1：前回審議会以降の経過について、  
資料2：各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

- 部会長：資料1の第7回ワーキンググループは、第2分科会が2つある。
- 事務局：誤りであり、修正させていただきたい。19日の第2分科会は第4分科会の誤りである。

## 協議事項

(資料3：施策区分別の個別事業について、事務局より説明)

- A委員：個別に施設の改修ならば4～5年かかると思うが、10年間全てに黒丸が付いている事業については、10年間継続するという事か。
- 事務局：スケジュールが見えないものは、このような表現となっている。冊子では「前期」と「後期」の両方に黒丸が付くことになるが、まだ見通しが立っていないものも多いことをご了承いただきたい。
- B委員：P3の特定健診については、国の事業で糖尿病の重症化予防やヘルスケアなど、既にメニュー事業となり、評価されているものもある。これに挙がっているものは本計画にも掲載してもらいたい。
- 市民生活部長：ヘルスケア事業に関して、黒部市では具体的なものはまだ持ち合わせていない。しかし特定健診の受診率向上は前から言われてきており、黒部市では特定健診を進めてきた。今後はヘルスケア事業も含め、推進していきたい。
- B委員：せめて国から取り組んで欲しいと言われているものは、本計画に記載してもらいたい。
- C委員：地域福祉体制について、介護ボランティアとなるための養成講座が市や福祉センターで開催され、それらを受講している人はかなりいるが、実際の活躍の場がない。現場で使えるようなシステムを構築できないか。  
前沢では実施されているが、一方で三日市ではほとんど開催されていない。講師を呼んで高い金を払っていながら何もされていない。講演後に、何かを立ち上げてほしいと20分かけて話し合っている。
- 計画主任：支え合い推進の養成講座については、1日でも欠けると、受講が不足するという事となる。地域の取り組みについては、支え合い推進医を充実してほしいとお願いしており、今後実施地区を増やしたいと努力している。
- C委員：これまで、一切声がかかったことはない。

- 計画主任：要請があれば伺っている。
- B委員：ボランティアが活躍できる場づくりが必要である。いろいろなボランティア養成はされているので、市と連携していくべきである。
- 部会長：「地域支え合い」は難しく、何度か市の職員に来てもらったが、地区が率先してしなければならないものであり、なかなか先に進まないのが実情。
- D委員：P9、10の子育て支援について、医療などは充実しているが、保護者の働き方については企業側が努力してもらう必要がある。市の子育て支援の事業だけでは十分ではない。例えば、愛寿福祉会について、預かっているお子様を守りながら、自分のことも守らなければならない。富山県からイクボス宣言をしないかとの相談があったが、その内容については納得いくものであった。子育て支援をしながら、保育士の子育て環境も守っていくことが必要。
- 計画主任：資料4の「4-5 子育て支援の充実」の市民・NPO・事業者等へのメッセージについて、「家庭・学校・地域・企業が連携し・・・」というものがあり、このような姿勢で、企業も含め、取り組んでいくべきである。
- 部会長：立派なスローガンがあっても、実際に動いてもらえるものなのか。
- E委員：人が不足しているのが一番の問題であり、たくさんの人を6～7人でみている状況であり、土曜も日曜もある。本当に人が少ない。
- 部会長：行政で地道に働きかけていってもらいたい。
- F委員：「高齢者の社会参加と交流の促進」は、具体的にどのようなものを考えているのか
- 計画主任：「老人クラブの育成支援」では財政的な支援、「高齢者のいきがづくり」ではイベントのバックアップ、「シルバー人材センター運営支援」では交流への支援を行っていきたい。
- F委員：高齢者の「社会参加」は、実際はなかなか長続きしないのではないかと。
- B委員：現在、高齢者ニーズ調査を実施している。市の事業だけでなく、週1回以上通える場の創出を、住民主体で取り組めるように進めていってもらいたい。
- 部会長：個人としての社会参加は増えてきているが、老人会等への参加は減少してきている。入りたくなるような仕掛けづくり・支援が必要である。
- C委員：P9の子育てに関する支援の件において、黒部市内の中学校には特典があるが、黒部市外の場合は補助がなくなり、サマーキャンプへの参加ができなくなる。その予算はどこから出ているのか。
- 事務局：教育系であり、第5部会での扱いとなる。
- 市民生活部長：黒部市の単独事業のため、市内限定となってしまう。

(資料4：各個別事業の協働体制、市民等へのメッセージ、主な指標と目標値について、事務局より説明)

- B委員：4-1の特定健康診査の受診率については、国では平成35年で70%を目標としているが、それを上回る目標値が必要でないのか。また、かかりつけ医で研修を受けるように、目標値を勘案してもらいたい。また、4-3の地域住民主体の通いの場の開催箇所数について、7箇所から25箇所と伸びているように見えるが、砺波市では5年以内に100箇所を目標としている。見える化システムと同レベルくらいにはなってもらいたい。
- 市民生活部長：特定健診の受診率については、黒部市の現状は厳しいものがあり、力を入れている状況であるが、現実的にできる指標として、今回提示させていただいている。
- 計画主任：開催箇所数については上方修正を検討したい。
- 部会長：全国と比べて黒部市が低い理由は何か。取り組みに違いはないのか。先進事例の情報を分析し、黒部市に反映してほしい。
- 計画主任：先進事例を学び成果を出したいと思っているが、現状は校区単位と町内単位で取り組んでいるところがあるが、今後は校区単位の広い範囲で取り組み、その後町内単位へと展開していくことが効率的と考えている。
- B委員：特定検診や訪問看護等について、やろうとする時には、黒部市にどのような問題があるのかを市民に提供していただいたい。砺波市は特定健診受診率が既に6割くらいとなっている。黒部市は医療連携など、優れたものはたくさんあるため、すぐに伸びる要素がある。
- E委員：近年は行政の縛りが厳しくなってきた。毎月実施している地区もあるが、年間5回の活動のところもある。人が増えていく中、行政の縛りが強くなり、毎週体操をしているところもある。誰かが世話をすれば、続けることはできる。活動はしているが、5回以上の活動をするためには条件が必要となる。どうしても世話をする人が決まってしまう。受講し資格がなければ開催できないのも問題があるのではないか。
- 部会長：受講中ということとして、携わることはできる。
- 計画主任：地域支え合いの支援の方も含め、なるべく協力していきたい。
- C委員：特定健康診断のお知らせについて、受信日のかなり前に書類が来るが、通知が来たことを忘れてしまうこともあるため、送付した後のフォローが重要である。町内の回覧などで、特定健康診断を受けてほしいとこまめに案内した方が良い。
- 計画主任：特定健診の案内については、65歳から74歳までは、6月に間に合うように発送している。集団検診については、7月にまとめて一斉に送付させていただいているが、送りっぱなしだと受診率が上がらないとは思っている。電話による案内もさせていただいているが、今年度は集団検診についてはハガキで再度案内させていただこうと思っている。
- G委員：健康づくりの基盤の充実のために、情報発信を充実し、何のために受診するのかを明確にしていくことが重要である。

(次回の部会について、事務局より説明)

## 閉会

---

- 事務局：以上をもって、第3回部会を閉会する。第4回審議会部会は、7月27日（木）14:00 から開催する。

以上